



# 予選2位から 逆転優勝

商学部・中村ゼミ4人  
「N's Lab」

MOMIKI  
SHOMA



SUNAGAWA  
SAKI



# 東南アジアで介護、人材育成の 就学・就職支援プラン



## 野島記念 Business Award2018



KOHARA  
NATSUKI



ONO  
AOI

中央大学最大規模のビジネスコンテスト「野島記念Business Award2018」決勝は昨年12月16日、多摩キャンパスで行われ、商学部中村寛樹ゼミ生4人のチーム「N's Lab」が優勝、参加37チームの頂点に立った。リーダーの小野葵さん(3年)が栄冠を得るまでの奮闘の日々を語った。

## 小野 葵(商学部3年)

3年生4人のチームを結成したのは、エントリー書類提出の2週間前でした。商業・貿易学科の小野が「この人たちと頑張りたい」と同級生3人のメンバーを集めました。

経営学科の小原捺暉<sup>こはら なつき</sup>、会計学科の榎木翔馬<sup>もみき</sup>、金融学科の砂川紗輝。くしくも商学部全4学科がそろいました。

ほぼ初対面だったため、チームづくりから始めました。このときは、まさか優勝するなんて、夢にも思いません。

事業プランを提出してから事業計画書を作成する時間も限られており、

全てがスピード勝負でした。メンバーは情報共有のため、エントリーの段階から毎日、グループ通話を始めました。

野島記念では、参加チームに対して評価やフィードバックなどがその都度、返送されます。なんとか作り上げた事業計画書は予想を超える得点でした。チーム「N's Lab」の優勝スイッチが入りました。

チーム名「N's Lab」は中村寛樹ゼミから生まれた中村研究所を格好良くしたもので、ロゴまで作りました。

ゼミは2017年度に発足し、アントレプレナーシップ(企業家・起業家精

神)などを学びます。ゼミではゼミ生の意欲や意思が尊重されます。野島記念参加も私たちが決めました。

予選(昨年11月25日)前々夜、プレゼンテーション担当の小原がインフルエンザにかかりました。急きよ、榎木と小野に代わりました。

予選・決勝とも資料提出期日はそれぞれの3日前。小原は持ち時間・10分間のプレゼン内容に合わせてパワーポイントに工夫をこらしていました。代役の2人は丸一日かけてプレゼン内容を暗記、何とか形にしました。



表彰式では、野島社長から祝福された

ありがとうございました。



## ■ お世話になった方々

株式会社ノジマ 代表執行役社長・野島廣司様

シェルフィー株式会社 代表取締役CEO・呂俊輝様

株式会社おかん 代表取締役CEO・沢木恵太様

Crevo株式会社 代表取締役・柴田憲佑様

株式会社メルカリ 社長室政策企画参事・高橋亮平様

※CEO=会長兼最高経営責任者

中央大学 商学部学部長・渡辺岳夫先生

野島記念business award 2018 実行委員会のみなさま

中央大学 商学部・中村寛樹先生

中村寛樹ゼミのみなさま

事業プランはASEAN(東南アジア諸国連合)の学生が志望就職先で役立つ資格を取得し、日本企業に就職するプラットフォームづくり。子どもたちの就学・就職支援です。介護を対象業種としました。

大切なメンバー、小原不在で挑んだ予選。ここで負けてはいけないと思っていましたが、審査員から「実現がイメージできない」「介護というテーマが壮大すぎる」といった厳しい指摘があり、決勝進出の手ごたえは、ほとんどありませんでした。

さらに野島記念出場者全チームへ、

「ウェブサイトを作らずにビジコンに出るのは好ましくない」というコメントもあり、本気度が伝わっていない、と感じました。

予選結果はAブロック2位通過です。1位通過は同じ中村ゼミから出場しているチームでした。ライバルに負けてしまった。逆転優勝への思いが、より一層強くなりました。

決勝進出が決定して間もなく、事業プランに関する助言などを頂くメンタリング会(ブラッシュアップの会)が開かれました。

審査員の方々から「内容が変わっ

ていない」「分析不足」「プレゼンの練習が足りない」と、またしても厳しく指摘されました。決勝プレゼンまでの残り時間を「構成再検討」に費やすことに決めました。

## ■ 大詰めで合宿

そう決めたものの、私たちの最大の難問は「忙しさ」にありました。

就職活動、部活動、アルバイト…と、それぞれに努力目標があり、日程調整を何度してもミーティングの時間がほとんど取れません。

そこで、夜の空いた数時間を利用して、毎日、グループ通話を重ねました。しかし、ラクロス部(学友会体育連盟)マネジャーの小野は、朝練習参加のため午前4時起床。通話中に眠ってしまったこともありました。

これではミーティングが進まないため、「合宿」も行いました。どこかへ行くのではなく、全員がフリーな午後10時～午前6時に集中的に作業を進めます。

## 事業プラン／タイトル【C-square】

### ～資格を通してASEANの学生と日本の企業を結ぶプラットフォーム～

ASEAN(東南アジア諸国連合)の大学進学率は約15%にとどまっています。私たちの事業プランは、企業が地域内の保護者と子どもたちに対し、近い将来の就職を担保とする就学支援を提案します。学校では最終的に就職先に役立つ資格取得を目指します。

一貫したリクルート事業を展開

することで、企業は求人コストを育成コストに転換できます。

介護を対象業種としました。アジア全域の市場規模は日本円で約500兆円超が見込まれています。日本は2025年までに介護従事者が、およそ35万人不足するとの予測があります。ニーズの高さもビジネスポイントです。

合宿を資料提出前、3日ほど実践。ミーティングができたとしても、夢に溢れる私たちは将来の夢や憧れの人について、ときに語り合ってしまう、作業は思うように、はかどりません。

意識したのは「仕事の割り当て」と「ゴール設定を徹底する」の2点。それからはそれぞれのタスクに専念し、決勝を迎えました。

昨年12月16日・日曜日。決勝会場は多摩キャンパスCスクエア中ホール。

いずれのチームも魅力的なプレゼンを披露していました。控室ではリラックスすることを心掛けましたが、やはり、全員が緊張をしているように感じました。

## ■ 必勝プレゼン

決勝プレゼンでは分かりやすさ、シンプルを心掛けました。既定10分間の半分以上を費やして、事業プランに関する課題の深刻さを訴えました。

参入する意義、サービスの存在価値をアピールするためです。競合他社などの分析も数多く行いました。

収支などの発表は必要最小限度に抑えました。プレゼン終了後に15分間、審査員の方々との質疑応答があります。

質問されるであろう関心の高い経費は質疑応答で説明するという作戦でした。持ち時間計25分間の配分を考えた、時間の使い方が功を奏したと思っています。

【この項 小原捺暉】

私たちの出番は8チーム中4番目。後々に登場するライバルたちのプレゼンを見て、自信をなくしていました。

「優勝はN's Labです!」

結果発表でチーム名が呼ばれたときは、言葉にならない思いでした。大学生活で味わったことのない達成感です。努力が報われました。



勝因は「チームワーク」だと思います。リーダーシップの小野、ブレンの榎木、ムードメーカーの小原、癒し系の砂川の4人。

お互いに足りないものを補い合ってきました。今となってはプライベートな相談もできる、かけがえのない仲間です。

商学部学生が優勝することは、近年、稀ということで、大変誇らしく思います。中村ゼミとしても、4チームが決勝(8チーム)に残るなど、大きな成果を残すことができました。



### □ 中村ゼミ

商学部・中村寛樹ゼミは2017年度に発足し、地域におけるソーシャル・アントレプレナーシップ(企業家・起業家精神)や実学などを学びます。1期生10人、2期生20人の計30人で活動中(2018年12月現在)。

ゼミの特徴は、ゼミ生の志望が尊重されます。ビジネスコンテストなどの参加・不参加はゼミ生の意向次第。授業は互いのビジネスプランをブラッシュアップする場でもあります。私たちは企業家・起業家を目指し、日々、実学を身に付けています。

### □ 野島記念

#### Business Award

中央大学が主催するビジネスコンテスト。中央大学商学部OBで株式会社ノジマ代表執行役社長の野島廣司氏が、中央大学からビジネス界で活躍する人が増えてほしい、との思いと篤志を受け、2007年から開催している。中大戦略経営研究科(ビジネススクール)などの協力のもと、初心者へのサポートが充実。参加者が成長できる「ビジコンの楽しさを知るビジコン」「面倒見の良いビジコン」としても知られている。



懸命なプレゼンテーション



# N's Lab

## 将来の夢



小野

リーダーの仕事は、メンバー全員が最大限の力を発揮できるような環境をつくることだと改めて思いました。今後は、さらにコーチングなどを学び、どんな組織でも動かせる人になりたいです。



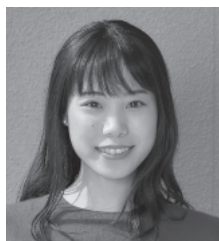
榎木

私の夢は、日本の誰もが「榎木」(もみき)という名前を知っているくらい社会に貢献できるような人になることです。この夢を忘れず一生懸命頑張っていきたいです。



小原

私はこのチームメンバーが大好きです。10年後、20年後、尊敬している3人から、頑張っているな、と誇ってもらえるような人間になりたいです。それが夢です。



砂川

私は失敗を恐れて、立ち止まって考え込むことが多くあります。しかし今後は成し遂げるとい強いを強く持ち続け、どんどん飛び込んでいきたいと思っています。

